



2015年4月9日

各 位

会社名 マックスバリュ九州株式会社
 代表者名 代表取締役社長 佐々木 勉
 (コード番号: 3171 JASDAQ)
 問合せ先 経営管理部長 篠崎 岳
 (電話番号 092-433-1228)

当社の親会社名 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号: 8267 東証第1部)

個別業績予想との差異に関するお知らせ

当社は2015年2月期(2014年3月1日~2015年2月28日)の個別業績予想と実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2015年2月期 個別業績予想数値との差異の修正(2014年3月1日~2015年2月28日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|---------|-------|-------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円・銭 |
| 前回発表予想(A) | 144,000 | 2,146 | 1,000 | 132.85 |
| 今期実績(B) | 141,936 | 1,448 | 267 | 35.55 |
| 増減額(B-A) | △2,063 | △697 | △732 | |
| 増減率(%) | △1.4 | △32.5 | △73.2 | |
| (ご参考)前期実績 (2014年2月期) | 138,612 | 2,137 | 1,024 | 136.11 |

2. 差異発生理由

当期における当社を取り巻く環境は、消費税増税による消費者の購買意欲の低下や、円安の進行による原材料価格上昇などの影響等により、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社は当期中に新店6店舗の開店と既存店1店舗の業態転換を実行するとともに、既存店の改装を実施し、お客さまニーズの高い即食型商品群や地域商品を積極的に導入し売上拡大に努めました。

第3四半期、第4四半期におきまして、計画の見直しを行い、第4四半期の売上高既存比は99.4%と改善の兆しは見たものの、売上高につきましては業績予想を下回りました。

利益面におきましては、原材料費の高騰による仕入原価の上昇圧力に対し、商品構成の見直しや高荒利商品の導入等により対応いたしましたが、商品値下の増加や物流コスト上昇により、売上総利益率は前年差▲0.2ポイントとなりました。

販売費及び一般管理費につきましては、店内オペレーションの効率化による総労働時間の削減に取り

組み、一定の成果は出ておりますが、売上高確保のための販促費の増加や電気代高騰による設備費の増加により、計画を下回りました。

特別損失につきましては、607百万円の減損損失等を計上いたしました。

なお、2015年2月期の期末配当につきましては、当初の公表どおり1株当たり38円の配当とさせていただきます。

以 上